

# 児童・生徒対象に「職業探検少年団」



The Asahi Shimbun

日立市は今年から、小学校5、6年の児童と中学生を対象とした「市職業探検少年団」の募集を始めた。地元の農協などが協力し、七つの少年団を結成。その道のプロや専門家から、仕事の基本を学んだり、実際に職業体験したりすることで、勤労観や職業観を身につけてもらう狙いがある。

# プロへ学ぶ仕事の意義

## 日立市 体験軸に職業教育

少年団は「農業」「林業」「水産業」「ものづくり」「あきんど」「IT」「福祉」の七つ。森林組合や水産振興協会、商工会議所、市社会福祉協議会などが中心となり生徒募集や指導にあたる。活動をまとめる事務局を日立商工会議所に設置し、市は年間運営費として58万円を補助する。

7月から活動を始め、基本的に土曜日と日曜日に月1〜2回程度学習。各少年団とも「学ぶ」「見学」「体験」の要素を盛り込んだ。例えば「水産業」の場合、漁港や水産試験場を見学したり、乗船や魚の水揚げ、選別作業などを体験したりする。「IT」では、パソコンの組み立てやホームページ作成も予定している。

同課によると、「子ども」のキャリア教育を少年団方式で取り組むのは、全国で初めてという。引田課長は「山や海に囲まれた、ものづくりの町ならではの資源をいかし、将来的な後継者育成や離職率低下につながれば」と話す。

募集人員は各少年団とも15〜20人で、期間は今年20日まで。費用は年会費5千円と、見学のバス代などが別途かかる。「福祉」のみ年会費無料で、今年度は日立・多賀地区で60人を募集する。

各少年団の実施主体に直接申し込む。問い合わせは、日立商工会議所内の市職業探検少年団本部事務局（0294・22・0128）へ。

朝日新聞

2006-6月6日